［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日　2009年2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	０８７０１００５３４
法人名	有限会社　アサミ
事業所名	アサミ園
所在地	茨城県水戸市住吉町60番地 （電　話）029-247-0549

評価機関名	特定非営利活動法人　認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台４－９－３　D101		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】（平成20年10月21日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　10年　7月　1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	12　人	常勤　5人，非常勤　7 人，常勤換算　5.3人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	1 階建ての　階　～　階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	50,000　円		その他の経費（月額）	80,000　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	400　円	昼食	800　円
	夕食	800　円	おやつ	円
	または1日当たり　円			

（4）利用者の概要（10月21日現在）

利用者人数		8 名	男性　3 名	女性	5 名
要介護1		1　名	要介護2	2	名
要介護3		2　名	要介護4	2	名
要介護5		名	要支援2	1	名
年齢	平均	85.6 歳	最低　82 歳	最高	92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	みと南ヶ丘病院・いばらき診療所こづる

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは住宅地に立地することを生かし、自治会の一員として地域の行事に参加したり、ホームの催し物には多くの地域住民を招待する等、地域の人たちとの交流を大切にしており、災害時には消防署への連絡と同時に近隣の住民が駆けつけてくれる等の協力体制の構築もできている。
管理者・職員は認知症ケアの専門職としての意識も高く、利用者の尊厳を護るケアについて常に学ぶ姿勢をもっており、特に終末期ケアについては地域資源を活かしながら先駆的取り組みをしている。このような長年にわたる認知症ケアへの熱心な取り組みにより、地域住民からの信頼も厚く、認知症についての相談を受けるなど認知症ケアの地域の拠点ともなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の評価で示された改善事項「日常的な外出支援」への取り組みとして、運営推進会議で意見を頂いたり、職員一人ひとりが意見を出し合ったりして、天気の良い日にはホームから見える安全な道を何時でも散歩できるようにした。また、外出の困難な利用者にはウッドデッキで外気浴ができるようにした。さらに美術館、植物園等へも、希望者が少人数でも出かけるようにした。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 職員は日頃のケアを振り返る良い機会と捉えて、全職員で話し合いながら自己評価項目を一つひとつまとめ、その内容を、施設長が職員に再度確認して自己評価表を作成した。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議は、地域の住民や市の職員、家族、以前の利用者家族等多くの方々の出席があり、外部評価の結果を報告したり、防火設備、防災対策や医療との連携等多岐にわたる議題について討議してもらい、有意義な意見や助言を頂く機会になっている。災害時の緊急連絡網の整備などの具体的な取り組みもできた。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 運営推進会議に家族が入る事で家族からの意見や要望をホームの運営に反映する仕組みをつくっている。不満・苦情・要望等は受付担当者や解決責任者をホームの玄関に明示して、何時でも受付けられるようにしており、不満・苦情・要望等があった場合には全職員で解決に向けた話し合いをする仕組みになっている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 自治会に入り地域の一員として地域の行事に参加したり、ホームの催し物には多数の地域住民が訪れたりと活発な交流ができている。また、認知症ケアについての相談を受けたり、災害時には地域住民との緊急連絡網が整備されている等、地域との密接な関係づくりができている。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域や利用者の状況の変化を捉えながら現状にあった理念を作り変える柔軟な姿勢をもち、利用者が尊厳をもってその人らしく生活できることを目指した事業所独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は常に理念を明記したカードを持ち理念にそった関わりができるようにしている。また日々のケアや会議等においても管理者は職員に理念にそったケアのあり方を指導したり共に考えたりして、理念の共有に努めている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として自治会や地域の行事に参加したり、ホームの催し物に近隣の住民に参加してもらう等、地域との交流を積極的に行っている。また認知症の家族をもつ地域の人の相談を受けたり、警察官が保護した認知症の人を一時預かる等、ホームの専門性を活かしながら地域と深く関わった交流ができている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共に評価の意義を十分に理解しており、前回の評価結果については職員一人ひとりが意見を出し合って改善に向けた取り組みを行った。今回の自己評価作成についても全職員が日頃のケアを再確認しながら取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、家族代表、近隣住民、有識者、施設職員をメンバーとして年6回運営推進会議を開催している。毎回の会議においては外部評価の結果を報告し改善に向けた意見を頂いたり、施設の状況、防災等について具体的な話し合いをしている。その結果、地域と緊急連絡網が整備されるなどの成果をあげている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	水戸市介護保険認定審査会の委員やキャラバンメイト等を積極的に引き受け行政との密接な関わりをもつよう努めている。また、水戸市GH連絡協議会を通してホームでの昼食会に行政の参加を要請したりしてホームの現状を知ってもらう機会作りに積極的に取り組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回のホーム便りと共に小遣い帳のコピーを送付している。また利用者の受診・体調の変化等についてはその都度連絡をしている。面会の際には、利用者の写真などを見てもらいながら日頃の暮らしぶりを丁寧に説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のメンバーに家族代表を入れて家族からの意見や要望がホームの運営に反映される仕組みづくりができている。また不満・苦情・要望などがあった場合には全職員で話し合い解決をする体制になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動による利用者への影響について十分に承知していることから、常に馴染みの職員が対応するよう心がけており、冷静な指導や研修参加など職員が安心して働ける職場作りを目指している。新職員の入社時には利用者一人ひとりに紹介し、顔見知りになることからの関係作りをしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・パート職員の別なく研修の機会を設けており、それぞれが希望する研修を受講できるようになっている。受講した研修は報告会を行い研修内容を全職員が共有できるような取り組みをしている。また、認知症ケア学会への参加や認知症ケア専門士の受験を積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内でGH連絡協議会をつくり、お互いのホームを訪問したり、新しいグループホームの閲覧会への参加や合同での研修会等を実施して、管理者・職員が共にサービスの質の向上を目指して他の事業所との交流を積極的に行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や利用者の状況・意向・要望等を確認し、日中一緒に過ごしてもらったり、契約前に生活を共にして他の利用者への影響や本人がホームの雰囲気に馴染めるかどうかを確認する為に2週間の体験入居期間を設けている。		体験入居期間中のホーム利用についての取り決めについて文書化しておくことも必要かと思われる。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者・職員共に利用者は人生の先輩であることを意識し、常に利用者から学ぶ姿勢をもって接しており、お互いに支え合う関係づくりができている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時のアセスメントに加えて、入浴時など職員と一対一になったような時の何気なく話す言葉や日々の行動の中で示す表情等から利用者の希望や思いを把握している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの思いや意向を基に、家族の要望を聞き、さらに職員の気づきや意見を取り入れながら、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングシートを用いて定期的な見直しを実施している。また月1回の全体会議や日々の申し送り時に、利用者の状態の変化が報告された場合には、その都度介護計画の見直しを実施している。		サービス提供の実施状況をモニタリングに際して、全職員による情報の共有をより確実にするために、利用者本人の日々の変化についての記録の方法を統一する等更なる工夫に期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症介護専門機関としてのホームの機能を十分に活用して、利用者の穏やかな生活支援や通院支援、専門医療機関への受診支援等本人・家族の希望や必要に応じて柔軟に対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは週1回の往診と共に24時間何時でも受診が可能な体制を整えている。また本人・家族の希望に応じて、かかりつけ医との関係も大切にし、受診の継続支援を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期についてのホームの方針が明確になっており、文書等も整備してある。また終末期に向けた医療との連携や家族・ホームの役割が明確にしてあり、他の利用者の安定した暮らしを妨げない為の配慮も十分にしてある。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者・職員共に日々の声かけ、介助において利用者の尊厳やプライバシーを損ねることのないよう十分な配慮ができている。個人情報の保護については勉強会やミーティングを通して十分承知している。		各居室のドアの窓が大きく、中が見えるようになっているので、本人・家族と相談して窓への対応を定めたが再度の話し合いをしていない。定期的に本人・家族の意向を確認することで、各人の希望にそったより良い対応になることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者本人の特徴や希望を把握して、本人が望む過ごし方を大切にし、一人ひとりのペースに合った生活ができるよう支援をしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が共に、自家菜園で収穫した野菜の下ごしらえをしたり、食卓の準備をして、それぞれの力を発揮する場面づくりをしている。食事の際には利用者同士が声をかけあったり、取り分けを手伝ったりと笑顔で食事を楽しむ様子が見られた。また食事介助をする職員の声かけも相手のペースに合わせてゆっくり穏やかに行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の週間や希望を考慮して何時でも好みの時間に入浴できるようにしている。入浴回数は特に定めていないが、入浴した日を記録し、入浴を促す声かけは適宜行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、包丁研ぎ、花の手入れ、調理等利用者一人ひとりの得意分野で各人が力を発揮する場面づくりの工夫をしている。お琴の会やカラオケ、テーブルアレンジメント等の楽しみごとを取り入れることで日々の生活にアクセントをつけ、張り合いや喜びのある暮らしになるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日にはホーム周辺を毎日のように散歩している。車椅子の人もウッドデッキに出て日光浴や外気にふれるようにしている。また、地域のお祭りには全員で参加したり、希望者があれば美術館や植物園、県庁の展望台等に気軽に外出している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの外出の傾向を把握して、利用者の様子を見ながら声かけ、見守りを行っており、日中は施錠せずに自由な暮らしができるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練の実施、近隣の住民や消防署・他事業所との協力体制の構築は十分にできている。飲料水の備蓄もしてある。しかし、災害時に備えて緊急持ち出しの準備や避難場所の確認・周知が職員・利用者・家族に徹底していない。	○	大きな災害も想定して、緊急持ち出しとして、どのようなものを考えておく必要があるか利用者の状態を考慮しながら職員間で検討することや広域の避難場所の確認、家族への周知等を期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者は利用者の必要摂取カロリーについて大まかに把握しており、月1回は体重測定をして栄養摂取状況を確認している。また定期的に血液検査を実施し、その結果に基づき利用者の状態に応じて水分、栄養摂取量を記録・管理している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂などの共用空間には季節を感じさせる花々が飾られており、ソファーや畳の間などで利用者がゆったりとくつろげるような雰囲気になっている。広々とした浴室も掃除がゆきとどいており清潔であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はタンスや仏壇等日頃から大切にしていた家具を持ち込み、家族と一緒に写真や思いでの品々を飾り、自宅での生活により近い雰囲気になるよう工夫をしている。		